



室蘭MaaS^{※1}プロジェクト 収集しマース

ゴミ収集作業のDX化により 作業時間と移動距離を大幅短縮

パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社のグループ会社で、車載システムや商品の設計・開発を手掛けているパナソニックITS株式会社は、移動に困らない地域社会の創造をめざし、北海道室蘭市と包括連携協定を結び^{※2}、2020年からさまざまなMaaSの実証実験を行っている。2021年から取り組んでいるのがゴミ収集を効率化するプロジェクト「収集しマース」。人口減少に反し、約6千カ所のゴミステーションは増加の一途をたどる。収集量は曜日によって偏りがあることなどから、収集作業員の負担増と稼働車両台数のばらつきが課題となっていた。

※1 Mobility as a Service :ICTを活用し、バスや鉄道、タクシーなどの公共交通を円滑につなぎ、検索・予約・決済を一括して提供するサービス

パナソニックITSが提供したシステムは、収集済み・未収集のゴミステーションをアプリで記録し、管理担当者が全16台の収集車の状況を一括で確認するもの。早く終わった作業員が未収集の地域を手伝いに行くことで効率を高め、収集業務日報作成や集計のデジタル化により作業時間も削減。さらに、各曜日の作業実績のデータを活用することでシフトを整理したり、最適なルートも算出可能。2022年にこのシステムを試験導入したところ、収集運搬に関する業務日報作成とその集計時間は前年より757時間短縮。移動距離も1万キロ以上短縮できたことから、2023年度はこのシステムが本格導入された。市は冬場に向けて、収集車と除雪車の連携も検討している。

※2 パナソニックITSは室蘭市にも事業所を構え、室蘭市や室蘭工業大学、地元企業と連携した数々の取り組みを行っている

室蘭MaaSプロジェクト 収集しマース

所在地 / 北海道室蘭市
協力 / 室蘭市
サービス提供 / パナソニックITS株式会社
サービス開始 / 2023年4月



祝津公園展望台



16台の収集車に取り付けられたタブレット。作業中にタップするだけでゴミステーションの収集完了を記録。データは管制センターに送信され、双方で連携を取った収集作業が可能となった

収集車両側



タブレットには、未収集と収集済みのゴミステーションや、他の収集車の位置情報を表示。収集漏れを減らし、車両間の連携を促進する

作業中にワンタップで収集記録が登録できるので、作業日報作成時間を効率化して作業者の負担を軽減

管制センター側



管制センターでは、運行している全てのゴミ収集車の位置や収集状況などを表示。複数の収集業者の統合管理制御も可能に

タブレットで作成された作業日報を一覧表示し自動集計。日報・月報・年報が自動作成され、エクセル出力も可能

主な納入設備
● Mobility as a Service